

東大医学部学生・教職員・広く一般に開かれた  
医学序論連続講座

# 医の原点

2017シリーズXVII



講 師

山口 育子

認定NPO法人  
ささえあい医療人権センターCOML  
理事長

石井 綾華

NPO法人Light Ring.  
代表理事

瀬山 邦明

順天堂大学大学院医学研究科  
呼吸器内科学  
前任准教授

児玉 龍彦

東京大学先端科学技術研究センター  
教授

仲野 徹

大阪大学大学院医学系研究科・病理学  
教授

金城 紀与史

沖縄県立中部病院  
内科副部長・研修管理委員会委員長

杉下 智彦

東京女子医科大学医学部  
国際環境・熱帯医学講座  
教授/講座主任

[www.m.u-tokyo.ac.jp](http://www.m.u-tokyo.ac.jp)

東京大学医学部 共催：東京大学医師会

# 医学序論 「医の原点」 シリーズ XVII

医学、医療分野の著名な講師による講義を受け、医学とは何か、医療とは何か、医師になることはどういうことか、患者と医師の関係はどうあるべきかなどの根元的な問いに対して、自らの体験に根ざして考える機会を得る。その中で自らの将来の医師像を描き、医師あるいは研究者になることの動機を高めることを目標とする。

第1回  
10/5

## 患者が望む医師とは

講師：山口 育子

認定NPO法人ささえあい医療人権センターCOML 理事長

認定NPO法人ささえあい医療人権センターCOML（コムル）は、患者の自立と主体的な医療への参加を目指して1990年から活動しています。日常の活動の柱は電話相談で、これまで約58000件の患者・家族のなまの声をお聴きしてきました。言うまでもなく、医師は患者のいのち、人生に大きくかかわる立場です。医師の養成課程において知識や技能は学ぶことができても、倫理、態度、コミュニケーション、人間性、誠実さ、感性などを適切に育成していくことは容易ではないと思います。中でも、医師には高い倫理観が求められます。COMLの活動を通して医学部の学生と接する機会も多く、学生の態度や意識に時代と共に変化が見られることを実感しています。その中でも、踏み込んだコミュニケーションを取ることができず悩む声を耳にします。しかし、医師は患者の究極のプライバシーと向き合う仕事なだけに、敢然と向き合うコミュニケーション能力を培う必要性があると考えます。患者の立場から医師に求めることとして、まずは丁寧な説明と確かな技術を磨いてもらうことは大前提です。その上で、忙しい医療現場のなかで「ここぞ」という場面の見極めをした患者対応ができる能力。更には人間性を感じる対応と開かれた態度をぜひとも身につけていただきたいと思っています。

### 講師略歴

大阪市生まれ。自らの患者体験から、患者の自立と主体的医療への必要性を痛感していた1991年11月COMLと出会う。活動趣旨に共感し、1992年2月にCOMLのスタッフとなり、相談、編集、渉外などを担当。2002年4月に法人化したNPO法人ささえあい医療人権センターCOMLの専務理事兼事務局長を経て、2011年8月理事長に就任。

第2回  
10/12

## スモークフリー社会を造る原点はヒトを思いやり慈しむ心

講師：瀬山 邦明

順天堂大学大学院医学研究科呼吸器内科学 先任准教授

21世紀は予防医学の時代と言われ、病気を予防し健康で長生きできる社会を作るための研究や実践が望まれています。たばこの煙のない社会をつくることは、この点で大きな成果が期待できる課題です。たばこは喫煙者だけでなく、喫煙者の煙を吸わされる周囲の人々の健康へも悪影響が及ぶことをご存じだと思います。日本では喫煙関連疾患で年間約13万人、受動喫煙が原因で約1.5万人が死亡していると推計されています。厚生労働省は、2016年8月に「喫煙と健康 喫煙の健康影響に関する検討会報告書」（通称、「たばこ白書」）を発表し、たばこの社会に与える損失は4.3兆円にものぼるとしています。世界では、たばこの健康被害を認識して公共の場所のすべてを屋内全面禁煙とする法律等を施行している国は49ヶ国（13億人）に及んでいます。しかし、オリンピック開催に向けて受動喫煙防止法の行方は迷走し、世界保健機構からは日本の受動喫煙対策は最低レベルと評価されています。最近では、煙の出ない、あるいは煙の見えにくいタバ

コ製品が次々と販売され、従来のタバコより害が少ないと宣伝されています。そのため、今まで禁煙だった公共の場でも吸える紙巻きタバコの代替品と考える方もいるようです。皆さんの回りでも愛用し始めた方がいるのではないのでしょうか？このセミナーが、たばこ問題に関心を持ち、自身で考え、正しい判断ができるようになる契機となることを期待します。

### 講師略歴

1982年北海道大学医学部卒業、1986年北海道大学大学院医学研究科生理系修了、1988自治医科大学附属病院内科レジデント研修終了後、順天堂大学医学部呼吸器内科に入局。1995～1998年米国ワシントン州立大学小児科にvisiting scientistとして留学。先天性免疫不全症候群について研究。1999年順天堂大学医学部呼吸器内科講師、2006年助教授、2007年先任准教授。専門はリンパ脈管筋腫症、 $\alpha_1$ -アンチトリプシン欠乏症、Birt-Hogg-Dubé症候群、嚢胞性肺疾患などの稀少呼吸器疾患。禁煙外来を担当。近隣町内会と一緒に地域の路上喫煙禁止運動に加わっている。2012年The LAM Foundation, A Breath of Hope 2012 Scientific Advancement Award、2012年日本呼吸器学会熊谷賞、2016年The LAM Foundation, Established Investigator Award。

第3回  
10/19

## Think outside the Box!

～臨床研修で米国に渡り、倫理と出会う～

講師：金城 紀与史

沖縄県立中部病院 内科副部長・研修管理委員会委員長

「道徳」とか「倫理」という言葉にどんな印象を持っていますか？ヒポクラテスの時代から「患者に害を与えないように Do No Harm」、「患者のプライバシーを守る」、など医師の職業倫理があります。これらは重要な原理・原則であること間違いありませんが、一方通行の授業で「道徳」を聞かされるのも味気ないものです。臨床現場には、実は倫理の問題がたくさんあります。ほとんど意識されないか、なんとなく周りの雰囲気に乗っかってやり過ごす場合も多いのです。これらは、原理・原則を知っているだけでは必ずしも解決しません。だからといって、「倫理」は結局なにも解決しないじゃん、と無気力になることも賢明ではないでしょう。そもそも赤の他人である患者を助けたいと思うわれわれの心はどこから来るのでしょうか？混み合う救急室で、どの患者から順に診察するべきでしょうか？今のうちからダイエットや禁煙をして健康維持しておけばよいのに、なぜ人は病気になってから一発逆転を狙って高額な治療に期待するのでしょうか？こんな疑問を取り上げてみたいと思います。臨床現場で遭遇する「倫理」の問題を、ちょっと違う角度からみなさんと考えて見ながら、頭の柔軟体操をできたらと思います。その中で演者が大学卒業後、市中病院に飛び出し米国臨床留学するなかで倫理に出会った経緯をご紹介します。外の空気を吸うことの効能についてもお話できればと思います。

### 講師略歴

1994年東京大学医学部医学科卒。亀田総合病院研修医、トマス・ジェファソン大学病院内科レジデント、マウントサイナイ医科大学呼吸器集中治療フェロー修了。ユニオン大学・アルバニー医科大学大学院生命倫理修士。2004年より手稲溪仁会病院、2008年より沖縄県立中部病院。

第4回  
10/26

## ソーシャルサポート力 ～20代の自殺予防に必要なスキル～

講師：石井 綾華

NPO法人Light Ring. 代表理事

自殺を考え悩んでいる人どんな言葉をかけるべきだと思いますか？そこには正解もなく相談を受けた多くの人が悩みます。20代若者の死因の第1位は「自殺」といわれています。その背景には精神疾患（うつ病など）を抱えており、1日に18～19人が自殺をしているのが現状です。では若者の自殺予防に必要なことは何か？NPO法人Light Ring.では、病院などの医療機関ではなく身近にいる家族・友人・恋人達による早期発見や予防が最重要であると考えています。身近な人達こそ早く察知することができ、迅速に対応ができますが「何をしたいのかわからない」「声をかけてみたが正しいのか自信がない」という声が多いのが現状です。そこで求められる力こそがソーシャルサポート力です。Light Ring.は「自分の大切な人を受け入れ、そばで支える」ための「受容力」「理解力」「知識力」を身につける養成事業及び、実生活で支援を行いながら、こころの病の社会課題の解決に活かしていく、支援事業を展開しています。一般市民が、専門家との役割分担を行いながら、友人や家族の周囲の方のソーシャルサポートを学べる教育機会と仲間との出逢いの場を創出する。日本の20代自殺うつ問題を、「同世代」の支え合うモデルで解消できる未来を目指しています。この講義ではNPO法人Light Ring.の活動を通じて若者の自殺予防に必要なソーシャルサポートについてご紹介したいと思います。

### 講師略歴

石井 綾華：自殺対策全国民間ネットワーク 共同代表・設立発起人、精神保健福祉士。12歳で精神疾患を発症した経験から、自殺やうつを「予防」できる社会を志向している。18歳の大学1年時より、学生の仲間たちと友人や恋人など専門家ではない一般の人が、身近な人の悩み相談を受ける「ソーシャル・サポート」事業を開始。「同世代」の支え合うモデルで、日本の若者の自殺うつ問題を解消できる未来を目指して活動している。・新宿区自殺総合対策会議/若者支援対策専門部会委員（平成27年～）・港区自殺対策関係機関連絡会委員（平成26年～） 著書「思春期学」長谷川寿一監修 東京大学出版会 第20章 一般市民の潜在能力と可能性

団体公式サイト：<http://lightring.or.jp/>

白井 龍太：NPO法人Light Ring.スタッフ。2015年國學院大学経済学部卒業。NPO法人Light Ring.スタッフとして参加。大学卒業後、不動産業界会社に入社。現在講演担当として活動中。高校時代友人から自殺相談にのるのが相談者の依存によりストレスが原因で帯状疱疹後神経痛を患う。その体験から支え手が持つ悩みを解消するためのサポートの重要性に気がつく。同じように支えに悩む若者が活躍できる社会を目標にしている。

第5回  
11/2

## 分子と細胞の基本モデル： 超分子構造をとくデータサイエンス

講師：児玉 龍彦

東京大学先端科学技術研究センター 教授

基礎医学の目標は、原子・分子の動きから、人の細胞を制御するメカニズムをときあかすことであり、病気の起こるメカニズムから治療の方法を考案することである。原子レベルからの探求は、生体の高分子である核酸とたんぱく質の構造と機能の解明をすすめてきた。一方、解剖学での個体、病理学での細胞、そして細胞生物学でのオルガネラの研究はオートファジーの解明など大きくすすみつつある。その中で、今の探求の焦点は、分子とオルガネラ間の「多数の分子が生み出す超分子構造のダイナミクス」となりつつある。ヒトゲノムは30億塩基対のDNA配列が解読され、それが、約千万個のヌクレオソームがヒストンやDNAの修飾情報をもとに

した超分子構造が形成するエピゲノムのダイナミクスが明らかになりつつある。今回の講義では、超分子構造の解明から、一つの受精卵から60兆個の細胞が一人の人間を形成する過程を、フィードバックを基礎とした超分子構造による制御系の重なり合いとするモデルを説明し、その具体的な解析理論とそれにもとづく治療法の開発を明らかにする。超分子構造をキーワードに「形」「修飾のダイナミクス」「ループのダイナミクス」「多重的フィードバックのモデル」の4段階を議論する。(1) 超分子構造の解明のモデル：クライオ電顕の解析理論 (2) ヒストンコードのデコーディング：質量分析での解読 (3) 核内のクロマチン構造のモデル：ゲノムの3次元ループ構造 (4) がんと生活習慣病における多重的フィードバックのメカニズムからの治療薬の開発

### 講師略歴

1977年東大医学部卒 内科医師 東大病院内科研修医、1979年東京都駒込病院感染症科、1984年東京大学医学博士 第三内科助手、1985年マサチューセッツ工科大学生物学部研究員、1990年東京大学医学部第三内科助手、1996年東京大学先端科学技術研究センター教授、2001年東京大学総長補佐、2011年東京大学アイソトープ総合センター長

受賞 読売新聞 テクノフォーラム21ゴールドメダル、エドウィンフオンベルツ賞35周年特別賞、Natureに10編のほか285編の英文原著論文著者、2011年 Nature誌の選ぶ世界の科学にもっとも影響力のある10人の一人

第6回  
11/9

## 21世紀の社会デザイン ～アフリカの生と死から学ぶこと～

講師：杉下 智彦

東京女子医科大学医学部国際環境・熱帯医学講座  
教授/講座主任

2015年9月、国連サミットにおいて持続可能な開発目標（SDGs）が採択され、グローバル社会は「経済」「社会」「環境」が調和した新しい価値観に基づく時代に入りました。保健分野においては、「ユニバーサルヘルスカバレッジの実現」に向けた強靱な保健システムの強化という包摂的な取り組みが明示され、社会的脆弱者に必要とされる保健サービスを負担可能な費用で提供することが喫緊の課題となっています。このような「惑星の意識」に立ったアジェンダ策定において、これまでの「大量生産・大量消費」に基づく経済成長モデルではなく、持続可能な未来を見据えた新しい価値観に基づく社会デザインの在り方が注目されています。特に、エイズやマラリアなどによる死亡率が高いアフリカは、これまで国際社会から一方的に援助を受ける対象でした。しかし人類発祥の地であり、数千年にもわたり持続可能な社会を創ってきたアフリカには、まさに「懐かしい未来」を創造する叡智に満ちている、とも考えられます。私たちが直面する近未来の保健ニーズは、単なる疾病の診断・治療だけでなく、高齢者や障がい者、女性や子供、社会的・性的マイノリティの人々が、「幸せな一生を送るためにどうすればいいのか」という価値観の模索です。それは、一人の医師や病院で自己完結するような医療体制ではなく、プライマリケアから高度医療、介護や福祉まで、個人・家族・地域社会・国家が一体となった取り組みと国民の「マインドセット」が重要です。「医の原点」では、アフリカの医療現場や妖術世界を中心とするコスモロジーを紹介しながら、人間の尊厳と調和という究極の課題を再考し、地球の未来におけるグランドデザインを描くため対話型セッションを行いたいと思います。

### 講師略歴

1990年医学部卒業（東北大学）、公衆衛生修士（ハーバード公衆衛生大学院）、医療人類学修士（ロンドン大学アジアアフリカ研究大学院）、地域保健博士（ケニア国グレート大学キスム校大学院）。外科医師、公衆衛生専門家、医療人類学者として、アフリカを中心に30か国以上で保健システム案件の立案、技術指導、実証研究などに携わる。国際協力機構（JICA）の国際協力専門員（保健課題アドバイ

ザー)として、WHOや世界銀行などととも「持続可能な開発目標(SDGs)」や「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ」などの策定を支援。2014年ソーシャル・ビジネス・グランプリ大賞受賞。2016年医療功労賞受賞。2016年10月より東京女子医科大学国際環境・熱帯医学講座(教授/講座主任)

第7回  
11/30

## おもしろきこともなき世をおもしろく エピジェネティクスの研究をする

講師: 仲野 徹

大阪大学大学院医学系研究科・病理学 教授

すべてのことがゲノムでわかるわけではありません。さらに「上書き」されている情報があります。それがエピジェネティクスです。比較的新しい学問分野なのですが、アサガオの花の模様から、ネズミのストレス耐性、記憶・学習、さらには一夫一妻制といった社会的行動にまで重要な役割を担うことがわかってきています。また、がんや生活習慣病といった数多くの疾患の発症にも関係しており、エピジェネティクスを操作する薬剤による治療法の開発もおこなわれています。エピジェネティクスは「DNAの塩基配列の変化を伴わずに、染色体における変化によって生じる、安定的に受け継がれう

る表現型」と定義されますが、どうにもすっきりしない説明です。むしろ「エピジェネティクスとはヒストン修飾とDNAメチル化による遺伝子発現制御」であると考えた方がわかりやすい、という立場から、エピジェネティクスをやさしく説明していきます。血液細胞の分化研究から始めて、現在は、生殖細胞や初期胚の発生・分化についての研究をおこなっています。エピジェネティクスの解説だけでなく、何を考えて研究テーマを選び、どのように漂ってきたのかについてもお話するつもりです。今年、還暦を迎えたのですが、これまでの、研究者としての、そして、研究者以外としての生活を振り返りながら、人間いかに面白く生くべきか、についても話せたらと考えています。

### 講師略歴

1981年 大阪大学医学部医学科卒業。内科医として勤務の後、1983年 大阪大学医学部・癌研究施設・助手。1989年 ヨーロッパ分子生物学研究所・研究員、1991年 京都大学医学部・医化学・講師、1995年 大阪大学微生物病研究所・遺伝子動態研究分野・教授を経て、2004年から現職。「いろいろな細胞がどのようにしてできてるのか」についての研究をおこなってきた。2012年 日本医師会医学賞。著書に『なかのとおるの生命科学者の伝記を読む(学研メディカル秀潤社 2011年)』、『エピジェネティクス 新しい生命像をえがく(岩波新書 2014年)』、『転換期を生きるきみたちへ(共著、晶文社 2016年)』など。趣味はノンフィクション読書、僻地旅行、義太夫語り。

## 医学序論「医の原点」シリーズ XVII 講義日程 場所: 医学部 鉄門記念講堂 教育研究棟14F

日時	講師	テーマ
1 10月 5日(木) 16:50-18:35	山口 育子	患者が望む医師とは
2 10月 12日(木) 16:50-18:35	瀬山 邦明	スモークフリー社会を造る原点はヒトを思いやり慈しむ心
3 10月 19日(木) 16:50-18:35	金城紀与史	Think outside the Box! ~臨床研修で米国に渡り、倫理と出会う~
4 10月 26日(木) 16:50-18:35	石井 綾華	ソーシャルサポート力 ~20代の自殺予防に必要なスキル~
5 11月 2日(木) 16:50-18:35	児玉 龍彦	分子と細胞の基本モデル: 超分子構造をとくデータサイエンス
6 11月 9日(木) 16:50-18:35	杉下 智彦	21世紀の社会デザイン -アフリカの生と死から学ぶこと-
7 11月 30日(木) 16:50-18:35	仲野 徹	おもしろきこともなき世をおもしろく エピジェネティクスの研究をする

問い合わせ先: 東京大学医学部教務係 (03-5841-3308)